

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.2 市街化調整区域土地利用検討事業			担当課	企画政策課			予算費目名	款	項	目
								02	01	08	
事業概要 及び目的	市街化調整区域を開発すべき農地と保全すべき農地に区分した上で、全体として秩序ある土地利用を図るため、各調整区域の将来の整備方針を策定する。			成果目標	成果指標	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
					計画値	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
					達成率	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
					達成率	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
事業の 位置づけ	章	3	安全で安心な暮らしができるまち	★左記施策(号)との結び付き 営農者・地権者との意向を十分に把握しつつ、秩序ある土地利用が図られることにより、良好な住環境等の創出に結びつける。	従事職員数	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	節	2	効果的な土地利用の促進		従事延べ日数	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	項	1	効果的な土地利用の促進		民間活力の導入	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	号	2	計画的な土地利用の誘導		現状は？：■実現している □将来可能性はある □将来困難だが可能性はある □余地なし 相手は？：□市民 □市民活動団体 ■企業・学校等 形態は？：勉強・意見交換会の運営等を業務委託している。	年度		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度

2. 進捗状況

				平成 21 年 7 月 13 日記入					平成 22 年 7 月 7 日記入					平成 23 年 4 月 22 日記入
年度	21 年度評価 (20 年度実施した事項についての評価)				22 年度評価 (21 年度実施した事項についての評価)				23 年度評価 (22 年度実施した事項についての評価)					
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	一部実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	一部実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由
完了した事項	・農家組合員役員との意見交換会(鷺沼地区) ・農家組合員を対象とした将来土地利用に関するアンケート調査(鷺沼地区)			・アンケート調査結果の報告及び勉強会を開催したいと考えていたが、人參の農繁期を考慮して、平成 21 年度の鷺沼地区座談会においてアンケート調査の結果報告を行い、その後に勉強会を開催したいと考えている。	・21 年度実施のアンケート調査の結果報告(鷺沼地区座談会) ・農家組合員との勉強・意見交換会の実施(鷺沼地区)				・アンケート調査の結果より、農家組合員が勉強したいと回答した項目について、引き続き 22 年度も実施するため。	・農家組合員との勉強・意見交換会の実施(1 回、鷺沼地区)				・2 回の勉強会を予定していたが、東日本大震災の影響により 1 回分が延期となったため。
継続している 事項					・農家組合員との勉強・意見交換会の実施(2 回、鷺沼地区)					・農家組合員との勉強・意見交換会の実施(1 回、鷺沼地区)				
未着手事項	・アンケート調査結果の報告(鷺沼地区) ・勉強会の開催(鷺沼地区)													
改善案	・地区座談会において、勉強会の開催について呼びかけ、多くの方に参加してもらえるよう努める。			成果指標 実績値 アンケートの実施 達成率 20%	・21 年度の 2 回の勉強・意見交換会では、参加者が少なかったため、22 年度の勉強会・意見交換会への参加を更に呼びかける必要がある。(座談会へ出席して呼び掛けることや、参加依頼の手紙の送付など)				成果指標 実績値 勉強会(2 回) 達成率 60%	・22 年度に行った勉強・意見交換会においても参加者が少なく、23 年度に行う勉強・意見交換会については、実施時期や周知方法等、農政課・JA・農家組合長との綿密な打ち合わせが必要である。				成果指標 実績値 勉強会(1 回) 達成率 80%

3. 今後の方向性

				※課内協議を経て管理職が記入してください。 平成 21 年 7 月 24 日協議実施					平成 22 年 7 月 27 日協議実施					平成 23 年 4 月 28 日協議実施
今後の方向性	成果の方向性	拡充												
		現状維持												
*根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか?なぜその「コストの方向性」をえらんだか?別紙「評価の視点」を参照してください。	方向性	縮小												
		休廃止												
		休廃止	縮小	現状維持	拡充	コストの方向性					休廃止	縮小	現状維持	拡充
		★上記を選択した根拠 本事業は本課においては現状どおり地権者や営農者の機運の醸成に留まらざるを得ず、有効性・適切性の観点から、事業を具体的に展開するのに当たっては、事業担当部署において取り組むべき事業である。				★上記を選択した根拠 効果的な土地利用の促進を図る上で本事業は重要な意義を有するが、あくまで地権者や営農者が主体的に事業を進めなければならないことから、行政としては実現可能性を十分に研究すると共に、地権者等の機運の醸成に努めるべき事業であるため				★上記を選択した根拠 本事業は地権者等の機運の醸成が不可欠であり、コストを掛ければ成果が上がるというものではないため。				
方向性を実現するため実施すること(改革案)	・鷺沼地区の勉強会の開催・継続に向けた事業担当部署との協議				・市街化調整区域検討プロジェクト及び市街地整備課と、市として今後どのように本事業を展開するのかを協議する必要がある。				・コストを縮小した分、職員の手作りによる勉強会等を実施する。					
前年度改革案の実施状況	□実施 ■一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。 鷺沼地区の勉強会開催には至っていないものの、地区の方々との会話が済み、アンケート調査が実施できたことは大きな進展であると評価できる。				□実施 ■一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。 鷺沼地区の勉強会は参加者が少なく、また庁内の協議検討も十分には進んでいない。				□実施 ■一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。 震災の影響により、1 回の勉強会しか開催できなかった。また、庁内の協議検討も大きな進展は得られなかった。					